



岡田

学校教育目標

10年間を見通した確かな学力と
豊かな人間性の育成

目指す子ども

ふるさ加佐を愛し 夢 未来に向かって歩み続ける子ども
~笑顔で いきき 自分から~

平成30年1月9日

舞鶴市立岡田小学校
学校だより No.11

<http://okada-es.maizuru.ed.jp>

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様にはご家族おそろいで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、本校教育の充実発展のために、地域を挙げての深いご理解と多大なご支援を賜りありがとうございました。

新年にあたり、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。本年も相変わりませずよろしくお願い申し上げます。



【芽が出てきた「人権の花」スイセン】

学校では3学期の始業式を迎えました。冬休みを終えて、子どもたちはどんな目標や決意を胸に持ち、登校してきたのでしょうか。目標が高すぎることなく、自分に合った達成できそうな目標を持ち、その実現に向けて少しずつ努力を重ねていくような毎日であってほしいと思います。そして、達成感や満足感などを味わいながら、さらに上へ上へと目標を高く持ち続けてほしいと願います。

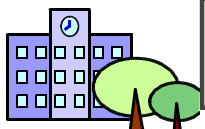
昨今よく耳にする話ですが、人工知能（AI）を取り入れたペット型ロボットやスマートスピーカー等の家庭用商品が次々と登場しています。ある学者は、「十年後、今、ある日本の仕事の49%は、人工知能やロボットがするであろう。」という研究結果を発表しました。十年後にコンピュータがするようになっているだろうと思われる仕事は、銀行の受付や、レストランの案内、スーパーのレジ、ホテルの受付等とされています。今小学生の子どもたちが大人になったら、現在は存在しない仕事に就くかもしれません。

では、ますます新しい人工知能が支配するこれからの時代を生き抜き、社会から必要とされる人材になるには、子どもたちにどのような力を付けておかなければならないのでしょうか。それは、機械ではできない、人間ならではの能力を身に付けることだと言われます。どんなに進化した機械でも、人間がプログラムした行動しかできないのです。

それならば、学校では、「相手の心や思いを豊かに感じ取る力」や「今まで学んだことを基にして自分で考え、行動して、目の前の新しい課題をクリアしていく力」を培っておくことが必要だと考えます。子どもたちには、授業中まず自分で考えを持って学習課題をクリアする力を付け、友達と一緒に交流してその課題を解決する会話力や意思を持ってほしいと思います。だからこそ、日々の生活の中で、人に言われなくても自分で気づき、目標を持って粘り強く努力する力が大切だと思うのですが、どうでしょうか。

3学期は大変短く「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われますが、学習した内容を十分に身に付け、新しい学年に進級する大切な学期です。一人一人の子どもたちが目標を立て、それを実現することができるよう、学校では精いっぱい努力をしていきます。

今年も、皆様のご協力ご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。



小中一貫で子どもを育てる・⑩ 西川先生と一緒に算数の授業

学担当の西川先生には一定の役割があります。予め担任の先生と相談をしておき、「この問題は中学校ではこのような問題に発展します。」「この活用問題を出します。」「解き方が分からない時に助けます。」等と、子どもたちの前に出て行きます。

その間、担任は子どもたちに個別に関わる時間を持つことができますので、子どもたちは、見通しを持ってじっくりと一人で考えることができます。そして、だんだん難しい問題も解けるようになり、力を伸ばしていきます。

5・6年生において担任の先生が算数の授業をしている時、加佐中学校の数



【机間指導をする加佐中 西川先生】

校長 羽賀 玲子 教職員一同